

平成28年度第1回富山県環境審議会 議事録（概要）

1 富山県環境審議会の組織・運営等について

ア 会長の選出

- ・遠藤委員が会長に選出された。

イ 副会長の選出

- ・湯浅純孝委員が第1順位副会長に、楠井隆史委員が第2順位副会長に選出された。

ウ 各専門部会に所属する委員等及び専門部会長の指名

- ・遠藤会長が7つの専門部会に属する委員等と専門部会長を指名した。

2 富山県環境教育等行動計画（仮称）の策定について（諮問）

（委員）

人材育成について、同じ人が複数の活動団体を兼任している場合が多い。新たな人材の発掘に取り組んでほしい。

（事務局）

ご指摘のとおり、新しい人材の発掘が大切であると思う。県で把握している方のほか、市町村や地域社会で活躍されている方など、関係団体、市町村、委員の先生方の意見を聞きながら、新しい人材の発掘に努めたい。

（会長）

地球温暖化防止活動推進員はどのような活動を行っているのか。

（事務局）

地域において、地球温暖化防止の啓発活動を担う人材である。公募委員の石崎委員、堀川委員は地球温暖化防止活動推進員である。

（委員）

主に小学校4年生を対象に、チャレンジ10を通して、地球温暖化防止に関する環境教育を行っている。各家庭で10項目の取組みを行い、CO₂をいくら削減したかを調べ、地球温暖化を防止するためにはどうしたらよいかを教えている。

（会長）

自分が所属する団体以外でどのような活動が行われているか、皆さんよく知らないと思う。自分が身近に感じていることと、行っている取組みのギャップなど、共通理解を深めていきたいと思う。この審議会の場合などを通じて、委員の皆さんの現場の声を計画の策定にいかしていただきたい。温暖化対策については、産業界では必死に取組みが行われている。一方で、一般の人たちに対しては、子どもへの環境教育などを通して実施していくことが大切であると思う。ぜひ、良い行動計画をつくっていただきたい。

（委員）

参考まで、実施している環境教育の取組みを紹介したい。小学生を対象に簡易的な水質調査や、幼稚園児を対象に海にごみを捨てないことを教える紙芝居など

の環境教室を開催している。また、今年は、国際的な基準に基づく漂着ごみ調査を行い、国際機関にその結果を情報提供した。参加校はまだ少ないが、今後、より多くの学校で実施していきたい。

(委員)

昨年、国で「気候変動の影響への適応計画」が閣議決定された。これは、「温暖化で生じる様々な影響にどう適応していくか」というものであり、今後の環境問題で重要な課題である。温暖化により、富山県では、立山の高山帯の生態系が変化する可能性がある。また、自然環境だけでなく、農業や防災も影響を受ける。適応策は地域ごとに対策が異なり、どのように取り組むか、県民全体で考えていかなければならない。県レベルで適応計画を策定していない段階であり、気の早い話かもしれないが、計画の策定にあたっては、こういった視野も必要だと思う。

(委員)

学校と関わりがあるが、企業や団体の関与がないと環境教育の実施が難しい。先生が環境教育を行いやすいように、教材やプログラムを整備したらよい。学校で実施すれば、家庭にも広がると思う。計画には大変期待している。

(会長)

私は地球温暖化について、地球の将来にとって深刻な問題だと考えている。コメントがあればいただきたい。

(委員)

地球温暖化については、科学的によくわからない点も多い。しかし、防止に取り組まなければ取り返しのつかないことにもなる。わかっている点とわからない点を理解しながら、進めていくことになるのではないかと思う。

3 富山県大気環境計画の改定について（諮問）

(会長)

専門部会所属の委員、よろしければコメントをいただきたい。

(委員)

PM2.5や水銀については、富山県のみならず、国においても重要な政策課題である。また、志賀原発のUPZが30km圏に拡大したことなど、計画の内容は多岐に渡るが、富山県の地域特性を踏まえ、一つひとつ進めていきたい。

4 第12次鳥獣保護管理事業計画の策定について（諮問）

5 第2種特定鳥獣管理計画の改定（ニホンザル、ツキノワグマ、イノシシ、ニホンジカ）及び策定（カモシカ、カワウ）について（諮問）

(会長)

専門部会所属の委員、コメントをいただきたい。

(委員)

野生生物とうまく共生していかなければならない。サルは、20～30年前から課

題であったが、その他の動物は最近10年以内に生じた課題である。（野生生物により被害を受けている農林水産業を）生業としている方がいる、生物の生息数などの実態を把握することが難しい、中山間地から人間が撤退し里山が崩壊していることで野生生物との共生が難しくなっているなど、大変難しい問題だと感じている。委員の皆さんと意見を交わしながら進めていきたい。

(会 長)

法律に管理とあるが、先ほどの意見では管理でなく、共生と表現された。本来は共生が望ましいと思う。共生することのリスクもあるが、このための新しい仕組みをつくらないといけない。

(委 員)

共生も大切であり、人間と生物、生物と生物とのバランスも大切であると思う。うまくバランスをとることができるよう、検討していきたい。

6 温泉掘削の許可について（報告）

7 その他

- ・ G 7 富山環境大臣会合及び関連イベントの実施結果について

(会 長)

各委員からコメント等があればいただきたい。

(委 員)

鳥獣保護管理計画について、会長から新しい共生の形を探してほしいとあったが、私も同感である。昔の共生の形も参考にすべきだと思うが、昔と今の暮らしは変わっており、新しい共生の形をご提言いただきたい。私の住む家でも、サルやカモシカ、狐など野生生物と遭遇する機会があり、率直に申しあげると憎らしいや怖いなどと感じることのほうが多い。地域の住民の方は、このように感じているのでないか。出没状況や被害状況を正確に把握して、計画に反映させていただきたい。

(委 員)

大学でナチュラルリストの方などの協力を得て立山で環境教育に取り組んでいるが、立山に登ったことがないという学生も多く、自然に触れる機会が少なくなっている。富山県は、身近に立山などの環境資源に恵まれているので、これを利用して、環境教育を進めていくべきだと思う。また、今後、E S Dという言葉があるが、少子高齢化が進む中で、環境を軸にしながら持続可能な地域づくりという形で環境教育を考えていくべきでないかと思う。

(委 員)

私は、ある小学校でビオトープを活用した自然環境教育に取り組んでいる。ビオトープを活用した環境教育は、有効で効率的な方法だと感じている。富山県は農業用水網が発達しているので、これを活用し、県内のなるべく多くの小学校に

ビオトープを整備し、環境教育を行っていったらよいと考えている。今回策定する行動計画の中でビオトープの整備の推進を充実していただきたい。

(委員)

私は、地球温暖化防止活動推進員として、小学校4年生を対象に環境教育に取り組んでいるが、4年生以降も継続的に環境教育を行うことで、欧米に負けないくらい環境意識の高い人間が育っていくことになると思う。また、コンビニで車のアイドリングをしている大人も見かけるので、大人に対する環境教育ももっと実施する必要があると思う。